

すぎなみ大人“熟”してる？

J u k u s i t e r u ? T I M E S ' 1 3

平成 25 年 9 月 7 日 発行

発刊元：塾熟出版（事務局）

東京都杉並区梅里 1-22-32(社会教育センター内) TEL 3317-6621 FAX 3317-6620

VOL.9



公開対話直前！最終調整の日

8月31日
土曜コース

問いが、ぶれないように「全体マップ」を考えておこう！

■参加者を迎えるにあたって

9月7日の募集もはじまり、にわか(?)現実味を帯びてきた公開哲学対話。まずは広石さんから、参加者に対し、チーム・ファシリテーターはどこに気をつけるか、再度確認のレクチャーがあった(下記)。人は言いたいことがあると、お題からそれて、ついつい自分の話を始めてしまう。まずはそこを吐き出してもらうことが、お題への集中力を高め、進行もスムーズにいくという事。なるほど、これは日常の会話にも応用できそうだ。

■チームがまとまってきた

前回チームができて、3週間。チームによっては休みの間に集まり、想定される問いや中間ふりかえりについて話し合いを重ねてきた。また、メールでやり取りを頻繁に行っていたところもある。今回もそれを踏まえて、さらに進行を想定し、思わぬことが起こっても対応できるように、考えた。広石さんのいう「全体マップ」の必要性がここにある。

■「場」をつくるということ

哲学対話を今まで数回行ってきて、自分の思いの根っこを考えてきた。今回はそんなベクトルを外に向けるときである。哲学する「場」を自分たちが作ることによって、人の思いに寄り添い、哲学する意味を参加者に伝えるやり方を学ぶ。学びが開かれるときである。大変だ~といいながら、懸命に話し合っている受講生は、とても真剣であり、楽しそうであった。広石さんの「ある意味、この準備をしている時間が、皆さんにとって一番哲学的な時かもしれないね。」という行う言葉に一票！でも、一番そう思っているのは、受講生かも。さあ、本番に向かってあと一息！（湊）

対話の場で重要なこと！

☆なぜそれを問いたいのか？

何を知りたいのか？→ぶれないように

☆全体のマップを作っておく

→ある程度の流れを考えておく→想定した内容を、参加者の言葉や答えに従ってチューニングをしていく

参加者の言葉をひろう事で、みんなの中から次の問いが出てきた感ができるように！

ファシリテーターの心得

- ・シンプルに、明確にする
- ・経験から話してもらうようにする。一般論にならないように。
- ・「受け止める」→うなずくなど、わかっているメッセージを出す。
- ・最初にルールを言う
- ・まず自分の思いを発散させる→お題にスムーズに入っていける。
- ★アイスブレイクが重要！
- ・参加者の意見：リスペクトすれども従わない



チームに分かれて、キャッチなコピーも考えた

9月2日
月曜コース

自分たちのやりたいことを深めよう

◆仲間の作文から新たな発見

月曜コースも残すところ、後3回。大分互いの個性が分かってきた今回は、“それぞれのやりたいことの背景にはどんな思いや経験があるのだろうか?”ということを知るため、グループになって3段階のおしゃべり談議。まずは、これまで受講生が書いた作文を読み解き、グループ内で話し合うことに。

読む作文は、現受講生が講座を受けて感じたことなどを毎回綴ったもの(右写真①)や以前のだがしや楽校卒業生が執筆した書籍『縁育て』の楽校(右写真②)から抜粋したものだ。

読んでいく内、同じグループにいる作文の書き手に「あなた、こんな得意なことをもっていらっしたのね!」と話をしている様子も見られた。「自分みせ」などのコミュニケーションを経た今だからこそその新たな発見があったようだ。↗



↑受講生が綴った作文(写真①)



↑『縁育て』の楽校(写真②)

◆思い出は社会的財産だ

他の受講生の新たな一面を発見したおしゃべり談議の次は、受講生の子ども頃の地域の思い出談議(右記参照)だ。

さて、思い出を語るってどんな意味があるのだろう。松田さんからは、「この思い出談議はそれ自体がすばらしいことです。さらに、これをみなさんでまとめていくことで、次の世代への立派な財産になるのではないのでしょうか」と。実は、『縁育て』の楽校にも人生の経験・思い出を記述したページがある。今回はその一部を谷原さんが朗読(下写真)。思い出が社会的な財産となる、このことを聴いてみなさんはどう感じ取っただろうか。↙

★思い出談議
でのお話。

●昭和初期の西武線は人糞運びの列車だった!
青梅街道にも人糞を農家へ運ぶ荷馬車が良く通っていた。
●昭和40~60年、その時の思い出の味はやっぱり、「駄菓子」が多かった(手搾りリンゴジュース、ガム、中華クッキー等)。
●昭和19~21年、母が着物と食べ物を交換している様子を見て、母を敬う気持ちが生まれました。

グループでのおしゃべり談議



◆プレ自主活動へ向けて

ここまでの2段階のおしゃべり談議は、卒業後の自主活動へと活かされていくことだろう。

3段階目のおしゃべり談議では、次回行う、卒業後の自主活動を見据えたプレ自主活動について話し合った。時間のなかであったが、“これからゆる〜くつながっていきましょう”というキーワードを軸にこれから活動を考えていくことになった!(坂)

《コラム》だがしや楽友たちは今

これまでのだがしや楽校を卒業された様々な持ち味を持った方々に、筆者がインタビューするこのコーナー。卒業生から、みなさんに向けた生の声をお届けします。「この人と一緒に何かしたい!」という方は事務局まで!

6回目は、24年度のだがしや楽校を卒業された、安野さん。卒業生の仲間と「グッドハンズ杉並」という団体をつくり、地域のお祭りなどで仲間と自分みせを開いています。

万事うまくいくわけではないところに面白さを感じているとのことでした。

さて、この方にとっての「だがしや楽校」とは?



□やりたいことをできる人と一緒に

坂本(以下、坂):「最近の様子を教えてください」

安野(以下、安):「8月にお世話になっている商店街の納涼大会に出店しました。自分たちのやれることと商店街の女将さんからの頼まれ事をうまくマッチさせてできたので満足です。」

坂:「あなたにとって、だがしや楽校とは?」

安:「いろんなタイプの人と出会い、しかもその人々の意外な面を見られることです。」

坂:「読者に向かってひとことどうぞ!」

安:「みなさんと共に同じ方向を見つめていきたいです。」

『縁育て』の楽校を朗読する
学習支援補助者・谷原さん→



◆すぎなみ大人“熟”してる?の発行にあたって◆

この新聞は事務局スタッフの独断と偏見と多少の事実に基づき作成しております。